



イエズス会

カンボジアの貧しい人たちを支援しているバタンバン友の会の会長はカンガス神父である。

彼はいエズス会員だが、そのイエズス会はカトリック教会の修道会の中で最も大きい。修道生活の歴史は古く、キリスト教に限らずユダヤ教、ヒンズー教、仏教にもあり、神との一致を求める人間の本性に根ざしたものであろう。

キリスト教では東方教会の方が修道生活を重んじたらしいが、西

方教会でも六世紀にベネディクトスが創設した修道院が、その後の修道会に大きな影響を与えた。つまり「祈りと労働」のモットーの下に修道院の囲いの中で自給自足の生活を送り、日夜決まった時間に共同の祈りを捧げる、今の観想修道会である。そして十一世紀、教皇グレゴリウス七世によって聖職者の独身制

が義務づけられた。十二世紀に入って托鉢修道会と呼ばれる、ベネディクト会とは異なるフ



キケ司教の周りにはすぐ子どもが集まる



神戸市立博物館にある

サビエルの肖像画



空港で再会を喜ぶ神父(右)がネリ神父

スコ会、ドミニコ会などが設立された。これらの修道会は定住地を持たず、修道者は貧しい生活をしながら人々に説教し、信仰の刷新を促した。今日の活動修道会である。現在、日本にある修道会には男子が四十八、女子は百余人である。日本にキリスト教を伝えたフランシスコ・サビエルはいエズス会員で、イエズス会はイグナチオ・ロヨラやサビエルによって一五三四年に創立された。その後、イエズス会

員は急速に増え、最も多い時は三万人を超えた。現在でも二万人以上のイエズス会員が世界各地で教会での司牧やいろんな活動に従事している。このうち日本にいる神父は二百人余り、教会司牧と教育事業を中心に活動しており、上智大学がその象徴とも言える。今回、シエリムアツプの空港に迎えてくれたのはインドネシア人のネリ神父。貧しい農民の生活向上のためにいろんな活動をしている。また各地を案内してくれたキケ司教はスペイン人。普通、司教はその国の神父から選ばれるが、宣教地な

ので例外的に修道会から選ばれた。二人ともイエズス会員である。バタンバン友の会の支援が有効に進められているのは現地のイエズス会の人たちとの協力関係によるものだ実感した。イエズス会は山口と深い関わりがある。サビエルゆかりの地として山口市にサビエル記念聖堂があるだけでなく、山口・島根地区のすべてのカトリック教会の神父はいエズス会員で、私もその神父から洗礼を受けた。(元山口放送取締役ラジオ局長)